

会 議 録

会議名称	第8回柳川市民文化会館（仮称）基本計画検討委員会
日 時	平成27年5月18日（月） 14:00～15:45
会 場	柳川市役所 三橋庁舎 第7会議室
出席者	[委 員] 立花委員、森田委員、姉川委員、椛島（道）委員、 安永委員、生田委員、古賀（俊）委員、古賀（理）委員、 壇委員、大橋委員、椛島（和）委員、原委員、勝見委員、 今村委員、黒田委員、古賀（弥）委員、齋藤委員 [事務局] 袖崎生涯学習課長、野田文化係長、堤文化係長、 生涯学習課文化係 須崎、堤（智） （株）シアターワークショップ 伊東、今川
欠席者	[委 員] 武末委員、草場委員、野田委員、大森委員
議 題 等	1 開会 2 会議録の確認 3 議題 （1）管理運営に関する協議について ①事業計画 ②管理運営 4 その他 （1）今後の予定について 5 閉会
会議資料	資料① 5/18 委員会協議資料 その他 茅野市民館 事業資料 平面図（参考配置図 大ホール可動席＋イベントホール） 案（会議後回収）
次回会議	平成27年6月8日（月） 14時から 柳川市役所 三橋庁舎 第2会議室

＜審議結果は次のとおり＞

1 開会

2 会議録の確認

3 議題

(1) 管理運営に関する協議について

①事業計画

- ・エアーキャスター方式について利用者はどのようなことを望んでいるのかが気になる。周囲の人は響きの良いホールが欲しいと思っている人が多い。可動式で本当に音が良いのか、との意見が多い。ホールの残響は2秒前後が多い。目的が何かによるが、個人的にはこの部分が引っ掛かる。
- ・エアーキャスターの安全面、保守点検費用、人手などを考えると、ロールバックでも良いのではないか。
- ・福岡のミュージックシティー天神、中洲ジャズに行ってきたが、観客が非常に多かった。これをそのまま柳川でやっても、人は集まらない。場所・人口の問題がある。
- ・自主事業の想定は、これからの運用、予算が不明だが、どこまでできるのか疑問を感じる。
- ・残響時間は、設計次第で長くすることができる。クラシック音楽に必要な長い残響時間から、それ以外の催事用の短い残響時間まで、設計次第で残響の幅を広げることは可能。
- ・今は調音パネルなど技術もいろいろ上がっているので、できると思う。施設は、一旦つくと50年は使うことになるので、多目的にして文化や子育てなど多くのことに対応できる方が良い。
- ・市民文化会館のホール利用料は、建築費用、コンクリートの耐用年数35年で決めるのが普通だが、それでは高すぎて市民には利用できない。一般的には同規模の周辺の施設の料金を調べて、その平均使用料から決めることが多い。
- ・利用者にとっては、利用料は安い方が良い。
- ・ロールバックとエアーキャスターの違いは、ロールバック方式では、椅子が一方向に下がるのみですので、平土間にしかできない。エアーキャスター方式では、椅子をブロック単位で移動できるので、センターステージを組むなど、いろいろな形式をつくることことができる。

- ・エアーキャスター方式の利点は、床の頑丈さに加え、ロールバックの客席ではなく普通の客席を採用できる。音の反射・吸収といったことにも考慮した椅子が設置できることが利点。
- ・ロールバックは下が空洞なので、音を吸収する。
- ・エアーキャスター方式の方が良いという方向のようだ。
- ・事業検討について、自主事業が6つの柱になっている。バランスよく、柳川らしい部分も打ち出されている。「社会包摂」というさまざまな違いのある人に対して、文化で共生社会をつくっていくという考え方である。新しい施設をつくるのであれば、この考え方をふまえて、事業展開をすべきと考える。積極的に地域社会全体に文化で働きかけて、地域をつくっていくという事業の柱をつくっていくことを考えてはどうか。
- ・コミュニティセンターはほとんど活用されていない。文化会館とコミュニティセンターとの連動・連携をきちんとしないと問題になりそうだ。
- ・日常の練習の場は、低料金の場所（コミュニティセンターなど）で行い、市民文化会館で発表する。また、専門的な練習は市民文化会館で行うなど、機能分担を図っていく予定。
- ・市民WSなどで、市民文化会館を防災拠点とするという話題があった。
- ・防災拠点となると、そちらが優先されてしまう可能性がある。
- ・防災機能としては、平土間のイベントホールや会議室・練習室で避難者を優先的に受け入れ、大ホールには受け入れない方向で考えたい。
- ・震災以降に新しく計画されている施設では、防災備蓄庫をつくるなどの対応をする施設が増えたが、第一次避難施設に指定されていない施設が多い。特に舞台は吊物等があり危険な為、客席部分を避難施設として使用せず、平土間部分を優先的に使用されている。
- ・避難施設としては、厨房がない。1週間は、住むための設備が必要。
- ・避難されている方がいる状況では、大ホールでにぎやかな催しはできない。
- ・避難所は、一時避難所、指定避難所、広域避難所があり、一時避難所は短期間の緊急避難に対応する場所であるため、避難者を収容するための場所があれば良く、長期避難になる場合は、他の避難所に行ってもらふことになる。

②管理運営

- ・文化ホールで指定管理の導入が始まったのは平成15年だった。当時は

官から民へ移すと経費が抑えられるという前提だったので受けが良かったが、その後いろいろ弊害が出ていると聞いている。

- ・最初は2つの目的があり、「サービスの向上」「経費の削減」だった。自治体によっては、直営に戻った施設もあるが、従来の直営ではなく、「業務委託」「任期付採用」など、さまざまな方法が検討されている。サービスの向上のためには専門的スタッフが必要。
- ・文化ホールには、指定管理はなじまなかったという報告がある。
- ・文化施設に指定管理がなじまないのは定説だが、工夫をしているところもある。公募して選ぶのが原則であるが、公募していない施設もある。
- ・いろいろなやり方があり、直営と指定管理の二者択一ではない。
- ・今後、どのようなスケジュールで直営/指定管理を決めるのか。
- ・基本計画策定の後、管理運営計画検討の委員会を立ち上げる予定。直営/指定管理の件も含め、今後のソフト計画の検討を進めたい。
- ・建物、設備の管理は専門的で、ソフトの企画運営とは違う業務である。
- ・市民参加とあるが、指定管理/直営の場合、市民がどのような文化事業を望んでいるのかにもよる。企画立案に参加してもらっても良いし、椅子を移動させる作業に協力してくれるボランティアなども考えられる。
- ・市民参画は大事。市民や個人のグループの相談にのれる、コーディネートのできるスタッフが必要。技術屋とソフト構築の人は違うので、役割分担が必要。
- ・ボランティアのマネジメントも必要。ボランティアがしっかりした組織であれば、コーディネーターもボランティアの中から行うことが可能である。組織づくりの為には、開館前から一緒に働く体制が必要。運営に関わる人が溜まれる場所、会館事業運営に関わる人の情報交換の場が欲しい。配置上のハード面の工夫があると良い。
- ・ボランティアのメンバーの入れ替わりがないと、事業の広がりがなくマンネリ化する。イベント会社の行事とボランティア企画の行事の両方があると良い。

4 その他

5 閉会